

国語 第3学年 漢字の音と訓

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

同じ漢字の音読みと訓読みを、語の中で区別して確かめる。学習の記録は、漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明である。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)エ	エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

単元の目標

第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。（〔知識及び技能〕(1)エ）

同じ漢字の音読みと訓読みを、語の中で区別して確かめる学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①同じ漢字の音読みと訓読みを、語の中で区別して確かめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全2時間（知・技2）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 同じ漢字の異なる読みを語で比べる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○同じ漢字の異なる読みを語で比べる。辞書で音訓を確かめる。自作の文や読み札を書く。意味と読みの対応を見直す。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）

本時の案

本時の目標：第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。〔知識及び技能〕(1)エ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「この読みは、どんな意味を表す語で使われていますか」 【めあて】同じ漢字の音読みと訓読みを、語の中で区別して確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ漢字を使っても読み方が違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この読みは、どんな意味を表す語で使われていますか」 同じ漢字の異なる読みを語で比べる。辞書で音訓を確かめる。自作の文や読み札を書く。意味と読みの対応を見直す。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ漢字を使っても読み方が違う。 ・漢字だけでなく語を読むと意味が分かる。 ・決められないので辞書で確かめた。	独自例「山」と「火山」の読みを比べ、教師が辞書で確認した音訓を使う。かるたを作る場合は教科書の問題を写さず、既習語から自分の短い読み札を考える。 想定する難しさ：単独で意味が分かれば必ず訓と決める、例外を無理に分類する。 評価では、第3学年までに配当されている漢字を読んでいるかを、漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・決められないので辞書で確かめた。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この読みは、どんな意味を表す語で使われていますか」。中央は、漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

単独で意味が分かれば必ず訓と決める、例外を無理に分類する。この難しさには、独自例「山」と「火山」の読みを比べ、教師が辞書で確認した音訓を使う。かるたを作る場合は教科書の問題を写さず、既習語から自分の短い読み札を考える。評価では、第3学年までに配当されている漢字を読んでいるかを、漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

漢字の音訓、使用した語、自作の読み札と意味の説明を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年上巻」45行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

